

「新・北九州市子ども読書プラン」に係る全事業の進捗状況 【A:大変順調、B:順調、C:やや遅れ、D:遅れ】

施策	主な取組み	取組み内容	事業計画(目標)	H30年度 取組み実績	R元年度 取組み実績	進捗状況
I 家庭・ 地域に おける 子ども の読書 活動の 推進	1 はじめての絵本事業 【重点】	・はじめての絵本事業 絵本バックを贈ることで、早い時期から子どもが本とふれあうことの大切さを啓発し、絵本の読み聞かせ等への参加を促す。	・配布率向上のため、母子健康手帳交付とあわせて、絵本バックを配布することで、配布率100%を目指す。	・新生児への絵本の 配布率 99.2%	・新生児への絵本の 配布率 99.0%	A ・配布方法を見直した結果、配布率が向上している。 ・引き続き、家庭における子どもの読書活動を支援するため、本事業を継続していく。
	2 家読(うちどく)の推進 【重点】	・「早寝・早起き・朝ごはん・読書カード」事業を通じた啓発。	・家庭における読書活動の習慣化、「家読」の推進を、読書カードを通して行う。	・読書の記録のページや、「家読にチャレンジ」のページで啓発を行った。	・読書の記録のページや、「家読にチャレンジ」のページで啓発を行った。	B ・全市の幼児・児童・生徒を対象とした、「家読」の啓発を行うことができた。読書カード事業に協力する保育所・幼稚園や学校が増加し、取り組む幼児・児童・生徒数も一定水準を維持できている。
		・「家読」チラシの作成・配布	・家庭における読書活動の推進のため「家読」チラシの配布を継続的に行う。	・2月にチラシを配布した。	・7月、読書カードと一緒に配布した。 ・2月、新たなチラシを作成し、3歳以上の幼児と、小中学校1年生に配布した。	B ・令和元年度は、7月に市内の全ての幼児・児童・生徒にチラシ(昨年度版)を配布した。2月に新たなチラシとポスターを作成し、市内の全ての幼児・児童・生徒に配布した。 ・また、ポスターを作成し、市立学校及び市内の市立図書館、市民センター、子育て関連施設に掲示を依頼して、啓発を行った。
		・家庭チャレンジハンドブック読書マイスター表彰	・各校において、「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家読の効果などを家庭に啓発するとともに、読書マイスターを表彰し家読の一層の励ましを行う。	・学校図書館職員研修の際に、学校図書館職員による特別支援学校や小中学校の読み聞かせの実践発表を行った。	・学校図書館職員研修の際に、特別支援学校配置の学校図書館職員の読み聞かせの実践交流を行った。	B ・学校により読み聞かせを行っている学校とそうでない学校がある。また朝の時間に、読み聞かせを行っていたが、他の取組に移行している学校もある。
	3 「早寝・早起き・朝ごはん・読書カード」事業	・早寝・早起き・朝ごはん・読書カード事業	・保育所・幼稚園の事業参加施設数 90施設	・保育所・幼稚園の事業参加施設数 112施設	・保育所・幼稚園の事業参加施設数 107施設	B 保育所の参加施設数が年々増加し、事業への関心理解が深まっている。今後は、幼稚園、小・中・特別支援学校の参加人数を、さらに増やすため、各幼稚園や学校への働きかけを工夫する必要がある。
	4 読み聞かせの実施 【重点】	・子育て関連施設での絵本の読み聞かせの実施 ・子どもが読書に親しめる環境づくり	・指導員を放課後児童クラブ等に派遣し、絵本の読み聞かせ等を実施することにより、子どもの読書意欲を高める。 ・放課後児童クラブ等活動支援事業にて、指導員を放課後児童クラブ等に派遣し、読み聞かせ等を実施する。	・読み聞かせの実施(29回) ※放課後児童クラブ9箇所 ※児童館1箇所	・読み聞かせの実施(27回) ※放課後児童クラブ10箇所 ※児童館1箇所	B ・実施回数は年度によって増減があるが一定数の実績がある状況。平成30年度、令和元年度には指導員を対象とした読み聞かせ研修を行っており、各クラブが独自に読み聞かせを行える環境づくりを進めている。
		・子育て関連施設における子ども向け事業 ・読み聞かせ等イベントの開催	・絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊び等を通じて、子どもたちに本の楽しさを体感してもらい、子どもたちと本を結びつける。 ・絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びを実施する。	〔こども文化会館〕 「おはなしワールド」を、概ね毎月第4土曜日(8・12月を除く、全10回)実施。参加者:延べ177人 〔子どもの館〕読み聞かせ等 平日13時～、毎月第1土曜日 〔子育てふれあい交流プラザ〕 読み聞かせ等:毎週木曜 その他年に5,6回イベント	〔こども文化会館〕 「おはなしワールド」を、概ね毎月第4土曜日(全12回)。参加者:延べ138人 〔子どもの館〕読み聞かせ等 平日13時～、毎月第1土曜日 〔子育てふれあい交流プラザ〕 読み聞かせ等:毎週木曜 その他年に5,6回イベント	B 〔こども文化会館〕 ・月ごとに参加人数は異なるが、子どもたちに本や紙芝居の楽しさを体感してもらった講座の目的が達成されていると見なしたため、順調とした。今後もより多くの子どもたちの参加につながるよう広報を工夫し、継続していく。 〔子どもの館・子育てふれあい交流プラザ〕 ・来館者の多くが参加し好評で、親子が読み聞かせに触れ合う機会として成果をあげているといえるため、順調とした。
		・市立幼稚園・小・中学校での読み聞かせの実施	・各幼稚園、小・中学校において、読み聞かせボランティアなど地域の協力を得ながら絵本等の読み聞かせを実施し、子どもが読書に親しめる環境づくりを進める。	・学校図書館職員研修の際に、学校図書館職員による特別支援学校や小中学校の読み聞かせの実践発表を行った。	・学校図書館職員研修の際に、特別支援学校配置の学校図書館職員の読み聞かせの実践交流を行った。	B ・学校により読み聞かせを行っている学校とそうでない学校がある。また朝の時間に、読み聞かせを行っていたが、他の取組に移行している学校もある。
		・市民センターでの読み聞かせ 子どもの読書活動に関する取り組み ・読書ボランティアの活動	・読み聞かせボランティアなど地域の協力を得ながら絵本等の読み聞かせを実施し、子どもが読書に親しめる環境づくりを進める。	・130館中、118館で読み聞かせ活動を実施した。 ・保護者・一般向けに対して読み聞かせに関する講座を開催した。	・130館中、110館で読み聞かせ活動を実施した。 ・保護者・一般向けに対して読み聞かせに関する講座を開催した。	B ・平成30年度は目標値(125館)、令和元年度は目標値(127館)を若干下回ったが、平成28年度、平成29年度には目標値を概ね達成できている。今後も市民センターの読み聞かせの実施が円滑に実施できるよう現状維持に努める。
		・市立図書館での絵本等の読み聞かせ・おはなし会の実施	・読み聞かせボランティアなどの協力を得ながら、絵本等の読み聞かせを実施し、子どもが読書に親しめる環境づくりを進める。	実施状況 ・実施回数 853回 ・参加人数 15,631人	・読み聞かせボランティアなどの協力を得ながら、絵本等の読み聞かせを実施した。 ※現在、実績集計中	B ・地区図書館、分館で、概ね毎月数回の読み聞かせやおはなし会を行っており、子どもが読書に親しめる環境づくりを進めた。

施策	主な取組み	取組み内容	事業計画(目標)	H30年度 取組み実績	R元年度 取組み実績	進捗状況	
I 家庭・地域における子どもの読書活動の推進	5 学校や市立図書館以外における図書貸出	・おもちゃライブラリーでのおもちゃ・絵本の貸出し ・おもちゃの研究、相談業務	・療育と教育の一環として、おもちゃを通じて身体的・精神的発達を促すため、おもちゃの貸出、研究及び相談を行う。	・総合療育センター等3か所で、おもちゃや絵本の貸出を行う。 ・来館者数 2,723人 ・貸出人数 1,404人 ・貸出点数 4,620点	・総合療育センター等4か所で、おもちゃや絵本の貸出を行う。 ・来館者数 3,023人 ・貸出人数 1,666人 ・貸出点数 5,309点	B	・前年度と比較して、来館者数等の実績は増加している。 ・利用者増加に向け、啓発を継続する予定。
		・子育て関連施設における児童向け図書の貸出し	・子どもの読書活動推進を図る ・図書の貸出を行う。	・児童書、絵本など子ども向け図書の貸出を実施。 〔こども文化会館〕 574人(1,307冊) 〔ひまわり文庫〕 526人(1,881冊)	・児童書、絵本など子ども向け図書の貸出を実施。 〔こども文化会館〕 258人(668冊) 〔ひまわり文庫〕 249人(597冊)	B	・令和元年度は、近隣の子ども図書館(平成30年12月開設)が整備されたことや認定こども園等の通園の増加もあり、乳幼児の利用が減少している。地域や子どもたちを取り巻く環境の変化等が、減少した起因として考えらる。
		・ひまわり文庫の図書整備 ・ひまわり文庫における図書貸出の実施	・身近で子どもが読書に親しむ機会を提供するため、「ひまわり文庫」において、貸出図書の充実を図る。	取り組み実績 ・設置箇所数 128ヶ所 ・貸出者数 25,756人 ・貸出冊数 52,297冊	「ひまわり文庫」における図書貸出を実施した。 ※現在、実績集計中	B	・概ね小学校区に1か所、設置しており、地域の身近な図書館として活用されている。配本の内容は、利用者の要望を取り入れて対応するように努めている。
		・市民センターにおけるひまわり文庫や、市民センターの図書コーナーの設置を促進する。	・ひまわり文庫や図書コーナー(寄贈された本等が置いてあるスペース)の利用を通して、子どもを含む地域住民の交流を図る。	・全館で実施(130館)	・全館で実施(130館)	A	・希望した市民センターには、全館にひまわり文庫が設置、また、ひまわり文庫がない市民センターにおいても、図書館が併設されていたり、図書コーナーが設けられている。
	6 家庭教育学級における子どもの読書をテーマとする講座の開催【重点】	・出前講演の実施等家庭教育学級開催支援	・家庭教育上の問題を相互学習の中で勉強する。 ・子どもの読書をテーマとする講座開催数年間100回	・子どもの読書をテーマとする講座開催数年間90回	・子どもの読書をテーマとする講座開催数年間77回	B	・令和元年度は目標値(85回)を下回ったが、平成29年度、平成30年度は目標値を達成した。引き続き、関係部署と連携・協力しながら取組みを継続する予定。
	7 ワーク・ライフ・バランスの取組みと連携した家庭の読書活動の推進【重点】	・ワーク・ライフ・バランスの取組み ・企業向け啓発チラシの作成・配布	・「家読」と「読書の日」を啓発するチラシを作成し、企業への配布を行う。	・北九州活性化協議会にチラシ配布を依頼。	・北九州活性化協議会にチラシ配布を依頼。 ・TOTO企業まつりで読書活動を広報。※雷雨のため中止に	B	・令和元年度は、新たな取組みとして、地元企業のまつりで広報を行う動きができた。(なお、雷雨により中止となった)
		・ワーク・ライフ・バランスの推進 ・企業向け出前セミナー講師、社労士アドバイザー等派遣、啓発セミナーの実施	・女性活躍やワーク・ライフ・バランスを推進する企業の取組みを支援する。また、働き方の見直しの啓発のためのセミナー等を実施する。	・「出前セミナー」、「社会労務士派遣」「働き方見直しの啓発セミナー」の実施 36回実施(目標39回)	・「出前セミナー」、「社会労務士派遣」「働き方見直しの啓発セミナー」の実施 47回実施(目標40回)	B	・平成30年度は目標をやや下回っているが、令和元年度は目標を達成した。
	8 専門家による出前セミナーの実施【重点】	・企業・市民センター・子育て関連施設等での専門家によるセミナーの開催	・「出前セミナー」の広報を積極的に行い、セミナーを開催数する企業等を増やすようにする。	・11月までに、市内2箇所で開催し、257人が参加。	・11月に、市内1箇所で開催し、総計648人が参加。	B	・対象となる学校、子育て関連施設、企業等に、セミナー開催のチラシを配布するなどの働きかけを行った。

施策	主な取組み	取組み内容	事業計画(目標)	H30年度 取組み実績	R元年度 取組み実績	進捗状況
II 学校における 子どもの 読書活動の 推進	9 「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」の啓発、実践【重点】	・認定こども園・幼稚園・保育所での読み聞かせ及びノーテレビ・ノーゲーム・読書の日の設定	・絵本の読み聞かせや紙芝居を実施する。 ・ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日に保護者に周知する。 ・図書コーナーを設置し、児童が絵本に親しむ機会を設ける。	・ほぼ全ての園で、読み聞かせや貸し出しを行った。 ・図書コーナーを設置、児童が絵本等に親しむ機会を設けた。 ・ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日に保護者に向けステッカーを貼り周知した。	・ほぼ全ての園で、読み聞かせや貸し出しを行った。 ・図書コーナーを設置、児童が絵本等に親しむ機会を設けた。 ・ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日に保護者に向けステッカーを貼り周知した。	B ・各園において、日常保育の中で児童が絵本等に親しむ機会を設け、貸し出しを行うことで、家庭での読み聞かせの機会や日常的に絵本と触れ合うきっかけづくりができた。各園で読み聞かせ等が行われ、図書コーナーが設置されているため「順調」と判断した。また、毎月、絵本の配付を行っている園も多い。「読書の日」の周知は年々1回ほどにとどまっている。ただし、建学の精神に基づき、各園独自の教育観を持っているため、行政から関与することが難しい。
		・各学校への通知及び取組みへの指導助言	・「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」を毎月設定し、児童生徒の読書意欲を高める様々な方策の実施に取り組む。	・学校図書館職員研修などで毎月23日がノーテレビ・ノーゲーム読書の日であることを周知した。	・学校図書館職員研修などで毎月23日がノーテレビ・ノーゲーム読書の日であることを周知した。	B ・各学校により、家庭における読書の推進とともにノーテレビ・ノーゲームの取組みを合わせて啓発した。 ・学校図書館職員より取組み例を収集し、研修等においてフィードバックし各校の取組みを推進している。
		・市民センターでの読書関連事業【再掲】 ※事業4と同様の取組み	・読み聞かせボランティアなど地域の協力を得ながら絵本等の読み聞かせを実施し、子どもが読書に親しめる環境づくりを進める。	・130館中、118館で読み聞かせ活動を実施した。 ・保護者・一般向けに対して読み聞かせに関する講座を開催した。	・130館中、110館で読み聞かせ活動を実施した。 ・保護者・一般向けに対して読み聞かせに関する講座を開催した。	B ・平成30年度は目標値(125館)、令和元年度は目標値(127館)を若干下回ったが、平成28年度、平成29年度には目標値を概ね達成した。今後も市民センターの読み聞かせの実施が円滑に実施できるよう現状維持に努める。
	10 一斉読書の時間の推進【重点】	・市立小・中・高等学校での一斉読書の実施	・すべての市立小・中・高等学校で、一斉読書に取り組む。さらに、その効果等の情報発信や指導・助言を行っていくことにより、実施増加を図る。	・小学校では、週に1回以上実施が95%、中学校では32%である。中学校では不定期に行っている学校がある。	・小学校では、週に1回以上実施が87%、中学校では26%である。中学校では不定期に行っている学校がある。	B ・朝読書については、他の取組みをしている学校もあり時間の確保が課題である。しかし、読書が読む力など学力向上の要因の一つであることを研修の機会等を通じてさらに各学校に周知する。
	11 音読・暗唱の推進	・市立小学校での音読暗唱ブック「ひまわり」を活用した音読暗唱活動、保育所・幼稚園等や中学校における取組みの検討	・音読暗唱ブック「ひまわり」を活用した音読暗唱活動を全小学校で実施する。また保育所・幼稚園や中学校でも可能な音読暗唱活動の取組について検討する。	・全員研修会等で音読のよさについて説明する場を設け、「ひまわり」の積極的活用を促した。 ・保育所・幼稚園等での音読暗唱活動の取組みを検討	・学校訪問や研修会等で音読のよさについて説明したり、「ひまわり」の積極的活用を促したりした。	B ・ひまわりを用いた暗唱活動について、学校において取組みを継続する。保育所でどのように取り入れることができるか、実態をふまえたうえで検討を続けている。しかし、保育の中への取り入れ方には工夫が必要である。私立幼稚園では、建学の精神に基づいた教育活動を行っているため、音読暗唱活動に対する取組みは様々である。
	12 学校の図書館資料の整備・充実【重点】	・図書館資料の充実、地域・郷土コーナーの設置 ・良質な図書や図書館資料の収集・整備 ・シビックプライドの醸成につながる郷土資料の充実	・学校図書館の環境整備、蔵書点検と図書の拡充、全校に郷土資料コーナーの設置を行う。 ・学校図書館の充実を図るため、文部科学省の「学校図書館図書標準」100%達成を目標に、図書の購入を進める。 ・子どもたちの意見・要望を踏まえた図書の購入をする。	・郷土資料コーナー設置100% ・研修会において実践発表と各学校の取組の紹介 ・図書の購入及び廃棄 (小学校) 購入:56623冊 廃棄:53301冊 (中学校) 購入:36648冊 廃棄:37383冊 (特別支援学校) 購入:3219冊 廃棄:673冊	・郷土資料コーナー設置100% ・研修会において実践発表と各学校の取組の紹介 ・学校図書館図書の状況を見ながら購入及び廃棄を実施中。	A ・郷土資料コーナーの設置100%をはじめ学校図書館の環境整備、蔵書の充実が進んだ。「学習センター」「情報センター」としての活用の推進を図っていく。 ・学級数の増減により「学校図書標準冊数」の増減はあるものの、年度末には小・中学校において「学校図書標準」100%を維持できる状況である。 ・引き続き、各学校の状況に応じて図書整備を進める予定。
	13 読書実践者・実践校等表彰	・子どもの読書活動優秀実践校の文部科学省への推薦	・学校単位で読書活動の推進に取り組む小中学校を読書活動優秀実践校として文部科学省に推薦するとともに、その取組みを各学校に広げる。	・学校図書館職員研修会において3中学校区、1特別支援学校の実践発表を行ったが文部科学省への推薦までにはいたらなかった。	・学校図書館職員研修会において特別支援学校の実践発表を行ったが文部科学省への推薦までにはいたらなかった。	B ・表彰に該当する取組をしている学校を把握し積極的に文部科学省へ推薦する。
	14 司書教諭の配置・育成	・司書教諭の配置(12学級以上の学校) ・司書教諭資格取得の促進	・12学級以上の学校に100%、11学級以下の学校は有資格者配置 ・学校図書館教育講習会等で司書教諭を育成	・12学級以上の全校に司書教諭を配置 ・11学級以下の71校中61校に有資格者を配置(配置率85.9%) ・有資格者数(司書教諭発令者を含む)626名	・12学級以上の全校に司書教諭を配置 ・11学級以下の70校中64校に有資格者を配置(配置率91.4%) ・有資格者数(司書教諭発令者を含む)650名	B ・12学級以上の全校に司書教諭を配置を達成している。 ・11学級以下の学校の有資格者の配置についても毎年増加している。 ・有資格者数が毎年増加している。
		・司書教諭等教職員の資質向上	・学校図書館職員の配置や学校図書館主任と共同での研修会を開催する。 ・学校図書館職員研修で、取組みについて紹介する。 ・大学と連携し司書教諭の免許取得を働きかける。	・学校図書館に関する研修を実施した。 ・図書館コーディネーターが各学校を定期的に回りアドバイスを行った。	・学校図書館に関する研修を実施した。 ・図書館コーディネーターが各学校を定期的に回りアドバイスを行った。	A ・年次計画に従い学校図書館職員の配置を進めている。管理職と学校図書館職員が同席した研修を設定した。
15 利用しやすい学校図書館の環境づくり【重点】	・学校図書館職員の配置拡充による図書館環境の整備充実と学校図書館の常時開館	・学校図書館職員の配置拡充、学校図書館の常時開館促進 ・ブックヘルパーの配置拡充 ・蔵書のデータ化、環境整備	・50中学校区+特別支援学校に50名配置 ・常時開館100% ・ブックヘルパーをスクールヘルパーとして継続	・55中学校区+特別支援学校に56名配置 ・図書館職員がいる日においては、常時開館100% ・ブックヘルパーをスクールヘルパーとして継続	A ・全中学校区配置に向け計画通り進んでいる。 ・今後利用の内容について把握し、充実に向けていく必要がある。	
	・特別な支援を要する子どもへの読書支援	・特別支援学校への学校図書館職員の配置をすすめ特別な支援を要する子どもへの読書支援を行う。	・大判の絵本を購入する等生徒の実態に応じた読みやすい本を購入した。学校図書館職員研修の際に取り組みについて紹介した。 ・特別支援学校担当連絡会を実施した。	・学校図書館職員研修の際に、補助教材(パネルシアターやペープサートなど)の活用について、学校図書館職員研修の際に紹介した。 ・特別支援学校担当連絡会を実施した。	A ・学校図書館職員研修会や特別支援学校担当連絡会の際に、読み聞かせの取組みや特別な支援を要する子どもへの支援について紹介し、各学校における取組みを推進している。	

施策	主な取組み	取組み内容	事業計画(目標)	H30年度 取組み実績	R元年度 取組み実績	進捗状況	
Ⅲ市立図書館における子どもの読書活動の推進	16 「家読おすすめコーナー」の設置	・市立図書館全館に「家読おすすめコーナー」の設置	・市立図書館全館に「家読おすすめコーナー」の設置し、おすすめの図書に関する情報提供や図書の展示などを行う。	・全館で実施 ※なお、中央図書館は共催	・全館で実施 ※なお、中央図書館は共催	B	・地区図書館、分館において、家読おすすめコーナーを設置し、情報提供や図書の展示等に取り組んでいる。
	17 図書の推薦	・読んだ本の紹介(ブックトーク、読書郵便等)の活動の推進	・特別な支援を要する子どもへの読書支援を行う。 ・学校図書館職員研修で取組みについて紹介する。 ・小・中学校は、各校で作成する「推薦読書リスト」を「子ども読書の日」などの時期に活用する。	・学校図書館職員の研修会においてビブリオバトルなどの実践発表を行い各校の「読んだ本の紹介」の取組について紹介した。	・学校図書館職員の研修会においてブックトークなどの講話と実践発表を行い各校の「読んだ本の紹介」の取組について紹介した。	A	・「子ども読書の日」等を活用し、各校において読んだ本の紹介(ブックトークやビブリオバトルなど)をすることができた。それらを通して今後さらに児童・生徒の表現する力の育成を図っていく。
		・絵本リストの配布、図書館だよりの発行 ・ホームページで、小中高生向けおすすめ本の紹介	・「0～2歳児」「3～6歳児」向け絵本リストを配布する。 ・中央図書館ホームページに「図書館からのおすすめ本」のページをつくり、校種及び学年別に本を紹介する。	・「0～2歳児」向け絵本リストをはじめの絵本事業の絵本配布にあわせて配布。 ・「3～6歳児」向け絵本リストを保育所・幼稚園を通じて配布。	・「0～2歳児」向け絵本リストをはじめの絵本事業の絵本配布にあわせて配布。 ・「3～6歳児」向け絵本リストを保育所・幼稚園を通じて配布。 ・ホームページで校種及び学年別におすすめ本を紹介した。	B	・はじめの絵本事業や保育園・幼稚園を通じて効率的に配布している。 ・ホームページのおすすめ本紹介ページを定期的に更新している。ホームページで定期的に良書の紹介を行うことで、子どもたちが読書に親しみきっかけのひとつとなっていると考えられるため、順調とした。
	18 読書感想文の募集	・市内小・中・特別支援学校の生徒から読書感想文を募集し表彰する	・7月から9月にかけて、市内小・中・特別支援学校の児童生徒から作品を募集、優れた作品を表彰する。	応募及び表彰状況 ・参加校数…188校 ・応募総数…36,510点 ・表彰者数…計2,898人 優秀賞:28点、優良賞:93点、入選:2,777点	応募及び表彰状況 ・参加校数…189校 ・応募総数…33,226点 ・表彰者数…計2,721人 優秀賞:28点、優良賞:93点、入選:2,600点	B	・市内の88.7%の小・中・特別支援学校から応募があり、総出品数も一定数を維持している。
	19 子どもの読書活動に関する相談機能の充実【重点】	・地区図書館の施設整備に合わせ相談専用窓口の設置 ・「調べ活動のしかた」のホームページへの掲載	・各市立図書館において、相談機能の充実を図るとともに、施設整備等に合わせて専用相談窓口の設置を検討する。	・子ども向きレファレンス用の図書資料購入や、新版への更新を行い、調べ学習用資料の提供、相談機能の充実を図った。	・子ども向きレファレンス用の図書資料購入や、新版への更新を行い、調べ学習用資料の提供、相談機能の充実を図った。	B	・各図書館に相談窓口を設けて、気軽に相談できる環境を提供するとともに、子ども図書館のホームページに子ども向けの調べ方マニュアルを掲載するなど、子どもたちの調べ学習を支援する取り組みを進めている。
	20 誰もが利用しやすい市立図書館の環境づくり	・図書館のバリアフリー化 ・和式トイレの洋式化 ・ウォシュレット改修	・利用者の要望等に基づき、和式トイレの洋式化、段差解消等を行い、バリアフリー化を実現する。	・小倉南図書館昇降機ガードコーナー設置、中央図書館で隙間対策 ・子ども図書館等トイレウォシュレット設置6カ所	・中央図書館2階エレベータ前スロープ手摺設置 ・中央図書館車いす利用者用視聴覚ブース設置	B	・図書館の整備とともに、既存館の改修を進めている。
		・図書の郵送貸出し	・心身の障害により図書館の利用に制約がある子どもに配慮して郵送貸出サービスを実施する。	貸出実績(うち18歳以下) ・貸出者数 193人(10人) ・貸出冊数 975冊(37冊) ※延べ数	・図書の郵送貸出しを実施 ※現在、実績集計中	B	・障害があるため来館が困難な利用者から好評を得ている。18歳以下の子どもの利用は少ない。
		・特別な支援を要する子どもに配慮した図書の充実	・特別な支援を要する子どもに配慮した図書を購入する。	・触って楽しめる布絵本や点字絵本、LLブック等を購入した。	・触って楽しめる布絵本や点字絵本、LLブック等を購入した。	B	・資料点数がまだ少なく、設置館も限られているが、小倉南図書館、子ども図書館の開館に併せて資料を増やした。
		・小倉南図書館への校外学習コーナーの設置	・小倉南図書館への校外学習コーナーの設置			A	・予定通りに設置が完了。
	21 「ヤングアダルト向け図書コーナー」の充実	・「ヤングアダルト向け図書コーナー」の充実 ・中高生向けおすすめ図書の情報提供	・ヤングアダルトコーナーの充実を図る。 ・おすすめ図書に関する情報の提供、展示・貸出を行う。	・ヤングアダルトコーナーの内容の充実に努めた。 ・おすすめ本や人気のある本を集めて展示を行った。	・ヤングアダルトコーナーの内容の充実に努めた。 ・おすすめ本や人気のある本を集めて展示を行った。	B	・各図書館にヤングアダルトコーナーを設置し、人気の高いライトノベルや、職業や資格の取り方など実用的なもののほか、生き方の指針となるような図書資料の購入を行い、充実に努めている。
22 読み聞かせボランティアの養成等、活躍の場の提供	・読み聞かせボランティアの養成及び人材活用	・読み聞かせボランティア養成講座を実施する。 ・読み聞かせボランティア団体の把握と名簿作成を行い、情報交換と研修を実施する。	実施状況 ・初心者コース(年2回) 参加人員 60人 ・経験者コース(年3回) 参加人員 52人	実施状況 ・初心者コース(年2回) 参加人員 60人 ・経験者コース(年3回) 参加人員 45人	B	・読み聞かせボランティア養成講座を毎年複数回実施し、受講者から好評を得ている。受講後、ボランティアとして活躍する人も多い。読み聞かせボランティアを集めての研修会も実施するなど、人材育成に努めている。	
23 子ども図書館の整備【重点】	・子ども図書館の整備 ・良質な資料の収集、提供 ・児童サービスの統括 ・学校図書館支援センター機能、地域・家庭での子ども読書活動の支援	・子どもの読書活動を総合的に推進する拠点として、「各市立図書館の児童サービスの統括」と「学校支援機能」を担う、子ども向け専門図書館として整備する。	施設や設備の工事が終わり、12月22日に子ども図書館が開館した。	良質な資料の収集・提供、学校図書館支援など設置目的に沿った取組みを進めた。「私たちのまちの児童文学コーナー」では、本市にゆかりのある作家による児童文学作品の紹介、顕彰を行うことができた。	A	・施設や設備の工事が終わり、ほぼ予定どおりに平成30年12月22日に子ども図書館が開館することができた。良質な資料の収集・提供、学校図書館支援など設置目的に沿った取組みを行っている。	
24 市立図書館への来館きっかけづくり【重点】	・おはなし会のほか、季節に応じたイベントの開催	・地域や他施設と連携したイベントを行い来館のきっかけづくりを行う。	・チラシ等でのイベント告知により、集客アップに努めた。	・チラシ等でのイベント告知により、集客アップに努めた。	B	・各図書館で、多様なイベントを実施するとともに、地域や他施設のイベントに参加するなど、図書館のPRに努め、来館のきっかけづくりを進めている。	

施策	主な取組み	取組み内容	事業計画(目標)	H30年度 取組み実績	R元年度 取組み実績	進捗状況
IV 子育て関連施設における子どもの読書活動の推進	25 子育て関連施設における読書活動の支援 【重点】	・親子ふれあいルーム等子育て関連施設でのセミナーの開催	・乳幼児を持つ保護者を対象に、絵本の紹介や読み聞かせ及び講座を行う。 ・ルーム内に絵本を設置 ・絵本の読み聞かせ、紹介 ・図書館だより掲示 ・夏休みに小学生低学年を対象とした「読書感想文講座」を実施。 ・ボランティアサークルや施設職員等による絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊び等の実施	〔親子ふれあいルーム〕 ・実施期間:4/1~3/31 ・実施状況:読み聞かせ、絵本の紹介、図書館だより掲示等を実施 〔こども文化会館〕 読書感想文講座:8/2・8/16の2回連続講座(14名参加) 〔子どもの館〕読み聞かせ等 平日13時~、毎月第1土曜日 〔子育てふれあい交流プラザ〕 読み聞かせ等:毎週木曜 その他年に5.6回イベント	〔親子ふれあいルーム〕 ・実施期間:4/1~2/27(コロナウイルス対策のため3月休所) ・実施状況:読み聞かせ、絵本の紹介、図書館だより掲示等を実施 〔こども文化会館〕 読書感想文講座:8/1・8/8の2回連続講座(10名参加) 〔子どもの館〕読み聞かせ等 平日13時~、毎月第1土曜日 〔子育てふれあい交流プラザ〕 読み聞かせ等:毎週木曜 その他年に5.6回イベント	B 〔親子ふれあいルーム〕 ・絵本を設置するほか、読み聞かせを実施するなど、読書に親しむ環境を整備し、多くの方に利用されていることから、順調とした。今後も事業を継続する予定。 〔こども文化会館〕 ・「読書感想文講座」は、毎年、ほぼ募集定員数に達しており、全員がワークシートを活用して学んだことにより、講座の目的の達成ができています。子どもの読書推進のためにも、課題を分析し評価することで、継続して実施したい講座の一つである。 〔子どもの館・子育てふれあい交流プラザ〕 ・来館者の多くが参加し好評で、親子が読み聞かせに触れ合う機会として成果をあげている。
		・幼稚園・保育所における読書活動の推進	・保育所において、特定の日に限らず絵本等の読み聞かせ、貸し出し等を行う。 ・図書コーナーを設置し、園児が絵本に親しむ機会を設ける。 ・地域の子育て家庭に向けての絵本貸し出しを行う。 ・絵本の配布(実費徴収)	・ほぼ全ての園で、絵本の読み聞かせや貸し出し等を行った。 ・各園で図書コーナーを設置し、幼児が絵本等に親しむ機会を設けた。 ・多くの幼稚園では絵本の配布を行った。	・ほぼ全ての園で、絵本の読み聞かせや貸し出し等を行った。 ・各園で図書コーナーを設置し、幼児が絵本等に親しむ機会を設けた。 ・多くの幼稚園では絵本の配布を行った。	B ・絵本と触れ合い、絵本等に親しむ環境づくりを行い読書活動の推進ができたため順調とした。地域の子育て家庭に向けての絵本貸し出しは更なる周知を行いたい。 ・各園で読み聞かせ等が行われ、図書コーナーが設置されている。また、毎月、絵本の配布を行っている園も多い。 ・建学の精神に基づき、各園独自の教育観を持っているため、行政から関与することが難しい。
	26 子育て関連施設における子どもの読書環境の充実 【重点】	・保育所、児童館、学童保育クラブ、親子ふれあいルーム等子育て関連施設への団体貸出・貸出文庫の利用・周知	・子育て関連施設に対し、市立図書館からの団体貸出・貸出文庫の利用者等や読み聞かせボランティアの派遣について周知を図る。	・子育て関連施設に対し、チラシを配布し、各種制度のPRを行った。 ・子育て関連施設への団体貸出文庫設置(74団体)	・子育て関連施設に対し、チラシを配布し、各種制度のPRを行った。 ・子育て関連施設への団体貸出文庫設置(71団体)	B ・子育て関連施設へのチラシ配布等、周知に努めることにより、読み聞かせボランティアの派遣要請など、読書環境の充実につながっている。
		・読み聞かせ等イベントの開催	・親子ふれあいルームの利用者である、乳幼児を持つ保護者を対象に、絵本の紹介や読み聞かせ及び講座を行い、読み聞かせの楽しさ・重要性を啓発する。 ・絵本を設置、読み聞かせ、紹介をする。 ・図書館だよりを掲示する。 ボランティアサークルによる絵本の読み聞かせや紙芝居手遊びの実施	〔親子ふれあいルーム〕 ・実施期間:4/1~3/31 ・実施状況:読み聞かせ、絵本の紹介、図書館だより掲示等を実施 〔子どもの館〕読み聞かせ等 平日13時~、毎月第1土曜日 〔子育てふれあい交流プラザ〕 読み聞かせ等:毎週木曜 その他年に5.6回イベント 〔こども文化会館〕 〔こども文化会館〕 「おはなしワールド」を、概ね毎月第4土曜日(8・12月を除く、全10回)実施。参加者:延べ177人	〔親子ふれあいルーム〕 ・実施期間:4/1~2/27(コロナウイルス対策のため3月休所) ・実施状況:読み聞かせ、絵本の紹介、図書館だより掲示等を実施 〔子どもの館〕読み聞かせ等 平日13時~、毎月第1土曜日 〔子育てふれあい交流プラザ〕 読み聞かせ等:毎週木曜 その他年に5.6回イベント 〔こども文化会館〕 〔こども文化会館〕 「おはなしワールド」を、概ね毎月第4土曜日(全12回)。参加者:延べ138人	B 〔親子ふれあいルーム〕 ・絵本を設置するほか、読み聞かせを実施するなど、読書に親しむ環境を整備し、多くの方に利用されていることから、順調とした。引き続き、事業を継続する予定。 〔子どもの館・子育てふれあい交流プラザ〕 ・来館者の多くが参加し好評で、親子が読み聞かせに触れ合う機会として成果をあげている。 〔こども文化会館〕 ・月ごとに参加人数は異なるが、子どもたちに本や紙芝居の楽しさを体感してもらった講座の目的が達成されている。今後もより多くの子どもたちの参加につながるよう広報を工夫し、継続していく。

施策	主な取組み	取組み内容	事業計画(目標)	H30年度 取組み実績	R元年度 取組み実績	進捗状況	
V 市立 その他 図書館 と学校 関連 施設、 市民 センター 強化	27 市立図書館と学校 ・子育て関連施設が 連携した読書活動 への支援 【重点】	・図書館の職場体験	・可能な限り、職場体験学習、職場見学を受け入れる。	・地区館、分館を合わせてかなりの受入があった。 (幼稚園・小学校・中学校・高校)186回	・職場体験学習、職場見学を受け入れた。 ※現在、実績集計中	B	・毎年、多くの学校からの見学や職場体験を受け入れ、貴重な体験の場を提供している。
		・「学校貸出図書セット」の学校への貸出 ・「学校貸出図書セット」の拡充及び周知徹底	・図書資源をより活用できるよう、「学校貸出図書セット」の充実や制度の周知徹底を図り、子どもが読書に親しむことのできる機会の拡充に努める。	前年と同様に実施 ・「学校貸出図書セット」を74セットに増設 ・貸出実績97件 ・学校図書館教育講習会で学校の関係職員に周知。	・「学校貸出図書セット」を74セットから80セットに増設。 ・学校への直接配送を開始 ・貸出実績77件(25校) ・学校図書館教育講習会で学校の関係職員に周知。	B	・「学校貸出図書セット」を特別支援用セットを含め、80セットまで増やした。セット数を順調に増やすことができていると考える。
		・子育て関連施設への団体貸出・貸出文庫の利用・周知	・子育て関連施設に対し、市立図書館からの団体貸出・貸出文庫の利用者等や読み聞かせボランティアの派遣について周知を図る。	・子育て関連施設に対し、チラシを配布し、各種制度のPRを行った。 ・子育て関連施設への団体貸出文庫設置(74団体)	・子育て関連施設に対し、チラシを配布し、各種制度のPRを行った。 ・子育て関連施設への団体貸出文庫設置(71団体)	B	・子育て関連施設へのチラシ配布等、周知に努めることにより、読み聞かせボランティアの派遣要請など、読書環境の充実につながっている。
	28 読み聞かせボランティアの学校・子育て関連施設・市民センター等への情報提供	・読み聞かせボランティアの情報提供	・学校の要請に応じて読み聞かせボランティアの情報を提供する。 ・学校と連携して、乳幼児や児童生徒の読書への関心を高める働きかけを支援する。	・読み聞かせボランティアバンクを活用し、ボランティアを派遣した。	・読み聞かせボランティアバンクを活用し、ボランティアを派遣した。	B	・読み聞かせボランティアバンクについて、地区館に情報提供を行い、地域での活動につなげるとともに、学校や保育所・放課後児童クラブなどの図書館見学時に読み聞かせの派遣依頼にも対応できるようになった。
	29 「子ども司書」の養成、活用 【重点】	・学校における「子ども司書」の活用	・「子ども司書」養成講座を受講した児童生徒が、学校において読書活動推進のリーダーとして活躍する場面を検討するなど、学校と市立図書館が連携・協力して制度の円滑な運用に取り組む。	・子ども司書講座を受講した児童生徒が、子ども図書館のオープニングを企画するなど具体的に活動に関わる機会がくれた。	・各学校において「子ども司書」養成講座を受講した児童生徒(読書活動推進リーダー)が図書の貸出や図書委員として活躍する場面を設定することを促した。	B	・「子ども司書」の、読書活動推進リーダーとしての活用について、子ども図書館と連携・協力し、各学校に説明・活用の推進について助言できた。「子ども司書」の養成講座の受講について、学校間にやや偏りがあることが課題である。
		・「子ども司書」養成講座の実施	・図書館司書の仕事や知識、読み聞かせの技能の習得を通じて子どもの読書に対する興味と理解を深めるようにする。 ・受講後は学校において読書活動推進リーダーとして活躍できるようにする。	・募集人数…70名程度 ・応募者数…57名 ・受講者数…55名 ・「北九州市子ども司書」認定証授与数…55名	・募集人数…70名程度 ・応募者数…52名 ・受講者数…51名 ・「北九州市子ども司書」認定証授与数…46名 ・修了証授与数…5名	B	・令和元年度は、定員を下回ったものの、52名が受講し、熱心に参加していた。実践貴重な体験の機会を提供し、読書リーダーとして活躍できる子どもたちの育成につながっており、実際に学校において読書活動を広げている。
30 図書館司書の学校への派遣	・図書館司書の学校への派遣	・学校の要請に応じて図書館司書を派遣し、市立図書館の利用方法や読み聞かせの方法など、子どもの読書活動に関するアドバイスを行う。	派遣実績 ・派遣回数 16回 (学校以外も含む)	・図書館司書を学校へ派遣した。 ※現在、実績集計中	B	・司書が学校等に出向いて読み聞かせや図書館の利用についての説明等を行うことで、子どもたちの読書意欲を高める機会になっている。	
31 文学館など関係施設・団体が行う各事業への協力 【重点】	・関連施設等が実施する事業の情報交換、参加促進	・「あなたにあって生まれた詩コンクール」、「子どもノンフィクション文学賞」実施に際し、市内の関連施設と相互に連携を図り、子どもの参加促進など協力体制を構築する。	・文化施設館長会議に中央図書館長も参加し、連携体制を作った。相互に事業のチラシを配架するなど協力を図った。 ・あなたにあって生まれた詩コンクール 応募数:1054件 ・子どもノンフィクション文学賞応募数:744件 ・松本清張記念館読書感想文コンクール 参加校数:25校 応募数:81点	・文化施設館長会議に中央図書館長も参加し、連携体制を作った。相互に事業のチラシを配架するなど協力を図った。 ・あなたにあって生まれた詩コンクール 応募数:1044件 ・子どもノンフィクション文学賞応募数:684件 ・松本清張記念館読書感想文コンクール 応募及び表彰状況 参加校数:21校 応募数:50点	B	・年毎の応募数に増減はあるものの、一定数の小中学生が参加している状況であるため、順調とした。引き続き、関係部署と連携・協力しながら事業を継続する。 ・図書館と他の文化施設等とが、相互に連携し、効果的な情報発信に努めており、各施設の利用促進につながっている。	

施策	主な取組み	取組み内容	事業計画(目標)	H30年度 取組み実績	R元年度 取組み実績	進捗状況	
VI 啓発・広報による意識向上	32 「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」の広報【重点】	・保育所での「子ども読書の日」の周知ノーテレビデーの設定	・毎月23日に所内でステッカーを貼り、「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」の周知を行う。 ・保育所の子どもに「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」のマグネットを配布する。	・ステッカーを貼り、「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」の周知を行った。 ・「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」のマグネットを配布した。	・ステッカーを貼り、「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」の周知を行った。 ・「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」のマグネットを配布した。	B	・ステッカーの掲示や配布を行い、「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」の広報に努め、保護者への周知と子ども達が絵本に親しむ機会を設定することができた。
		・PTAと連携した啓発	・PTAが行う、子どもの読書活動啓発の取組みに協力・支援する。	・PTAと連携し、PTA協議会母親委員会が中心となり、読書活動推進に取り組んだ。各学校の学校図書館を訪問し、新刊本の整理等、図書整備のお手伝いを母親委員会が手伝うという取組みを行った。	・PTAと連携し、PTA協議会母親委員会を中心となり、読書活動推進に取り組んだ。各学校の学校図書館を訪問し、新刊本の整理等、図書整備のお手伝いを母親委員会が手伝うという取組みを行った。	B	・子ども読書日や読書活動に関する啓発を、大きな規模の研修会や研究大会で行っているが、今後は、単Pへの啓発活動など、きめ細かな働きかけが必要。
		・しおり等の作成・配布(全市の園児・小中特支1年生の保護者)	・読書の日の周知と読書活動推進の啓発のためのチラシを作成・配布(全市の園児・小中特支1年生の保護者)	・啓発チラシの配布 ・幼児・児童・生徒に114385部 ・幼児全員と小中特支1年に再度配布(1月)	・啓発チラシの配布 ・幼児・児童・生徒に114735部 ・幼児全員と小中特支1年に再度配布47300部(1月)	B	・家読チラシ(裏面:読書の日啓発)を7月と2月(1年生用)の2回配布し、子どもだけでなく保護者にも啓発を行った。R01年度も、啓発ポスターを作成し、学校や子育て関連施設等に掲示を依頼した。
		・図書館における「子ども読書の日」「読書週間」の推進	・「子ども読書の日」「読書週間」の前後に市立図書館(17館)において、おはなし会や本の展示等を行なう。	・「子ども読書の日」 取組期間:4月下旬～5月上旬 延24件の行事が開催された。 ・「読書週間」 期間:10月下旬～11月中旬 延98件の行事が開催された。	・「子ども読書の日」 取組期間:4月下旬～5月上旬 ・「読書週間」 期間:10月下旬～11月中旬 定例行事のほか、各館で様々な行事を開催	B	・「子ども読書の日」及び「読書週間」に併せて、各館で多様な行事を行っており、子どもが読書の楽しさをしるきっかけとなっている。
	33 読書活動の理解促進	・家庭学習チャレンジハンドブックの読書貯金の頁、「家庭学習マイスター賞」による読書推進	・家庭学習チャレンジハンドブックの読書貯金のページ、「家庭学習マイスター賞」による読書推進する。	・学校図書館職員の研修では家庭読書の取組みの紹介をし推進を行った。	・学校図書館職員の研修では家庭読書の取組みの紹介をし推進を行った。	B	・各学校で家庭での読書の取組みや保護者への啓発を行っている。
34 絵本カーニバルの開催【重点】	・絵本カーニバルの開催	・読書活動の啓発を市民に対して行うため、「絵本カーニバルin黒崎」を開催する。	・絵本カーニバルin黒崎 ・H30.8.1～H30.8.5開催 ・参加者数:2522人	・絵本カーニバルin黒崎 ・R1.8.7～R2.8.11開催 ・参加者数:2430人	A	・例年、多くの以上の参加者を集めるイベントとして定着し、黒崎地区の賑わいづくりにもつながっており、市民への広報活動としての役割を果たしている。	
35 電子書籍の普及動向・活用に関する調査・研究	・情報収集等による調査	・電子書籍に関する調査。 ・図書資料等のデジタルデータ化。	・郷土資料のデジタル化の検討を進め、民間団体と協力し、ガラス乾板のデジタル化を行った。	・サビエ図書館の登録準備を行った。	B	・サビエ図書館の登録準備を始め、一般への提供に関して研究を行っている。	
VII 主体 子どもの読書成に 関 支 わ 援 る	36 子ども読書会議の開催【重点】	・子ども読書会議の開催	・子どもが主体的となって読書活動を推進するために、子どもたち自身の意見やアイデアを聴く。 ・子どものアイデアによる読書イベントや啓発活動をみんなで考える場を設定する。	・H30.8.18開催 ・参加者数:55名 子ども図書館の開館を盛り上げるアイデアを話し合う。 テーマ「図書館びらき!～私たちが盛り上げるぞ☆子ども図書館～」	・R元.8.17開催 ・参加者数:51名 学校取り組み読書活動を盛り上げるアイデアを話し合う。 テーマ「読書好き倍増計画～学校での読書活動を盛り上げよう～」	A	・毎年、子ども司書養成講座を修了した小中学生が会議に参加し、テーマに沿った話し合いを行っている。会議中に出された意見、アイデアは、子ども図書館の整備や各種イベントの企画に生かされる。また、学校の協力で、修了生が、講座で身に付けた知識や技能を学校で発揮することができた。 ・令和元年度は、ジュニアサポーター活用事業をスタートさせることができ、子どもたちが主体となって進める図書館運営の実現に向け一歩踏み出した。